

国際宇宙ステーション計画 説明のポイント

1 目的、目標

先端科学技術への挑戦

生命の起源、宇宙の起源、地球観測、先端技術開発、宇宙医学

社会経済への貢献

応用研究（ポストゲノム、IT、ナノ・材料） 国際社会への寄与、
一般的利用（教育、文化、民間利用 etc.）

有人活動基盤の強化

有人宇宙技術の獲得

2 我が国の対応及び現状

我が国は、日本の実験棟（愛称「きぼう」）をもって参加

「きぼう」の開発は最終段階（実機の全体システム試験を完了等）

「きぼう」は 17～19 年度に 3 回に分けて打ち上げ予定

3 今後の展開

【国内】

計画を取り巻く環境の変化（米国の計画見直し、利用の拡大・多様化への要請、厳しい国内財政事情、宇宙三機関の統合）を受け、宇宙開発委員会で、宇宙ステーションの利用計画、運用・利用体制の見直しに係る検討を開始し、本年度末を目途にとりまとめ

検討項目

- ・我が国の宇宙ステーション計画への参画意義と理念の確認
- ・宇宙ステーション利用の重点化指針の設定
- ・宇宙ステーション計画に係る新機関の運用・利用体制の検討
- ・宇宙ステーション利用制度に係る検討

【国際】

米国の予算超過問題により、国際間で計画の見直しを開始

（注）本年 12 月の宇宙機関長会議（日本からは開発実施機関である宇宙開発事業団が参加）で今後の検討・調整の進め方が議論され、来年 3 月に推奨される最終形態の検討案を設定し、6/7 月までに見直した最終形態案を選定し、12 月までに最終形態を承認することに合意